

園の輪

そののわ No.184

学校法人 甲子園学院



源氏物語 第九帖「葵」(甲子園学院美術資料館蔵)

CONTENTS

〈ESSAY 2023〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4~9
「大学生生活」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
木本 実	
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
伏木亨 甲子園大学新学長あいさつ	
学院物故者慰霊塔参拝(高野山)	

大 学 生 活

木 本 実



甲子園大学に2020年4月に採用していただきました。最初に大学を訪問した時、建てられて50年ほど経っているのに、綺麗に維持されていることがとても印象に残っています。このご縁は、大学時代の友人からで、企業で「開発」と「経営」の実績があり、大学で実践的な授業が出来る人を探しているとの連絡を頂いたのが始まりです。

それ以前は、不二製油（株）という食品素材メーカーで勤務し、食品開発に25年、事業運営で5年、経営に6年間従事しました。会社を退職後3年間は、時間の余裕が急に出来て健康維持のためにゴルフを行い、知的好奇心を満たすために、読書に加えて自宅近くの国立大学に聴講生として講義を受けていました。この大学は規模が大きく、聴講した授業では一方的に話を聞くだけで、知的好奇心を掻き立てるものではありませんでした。自分ならもっと面白く工夫するのにと、勝手に思っていました。

現在甲子園大学で7科目を担当しています。どれも大事な授業ですが、その中でも特に思い入れのある科目が、「経営と文化」と「食品産業論」です。「経営と文化」について少し説明します。

「経営と文化」は、名が表すようにテーマが大きくかつ曖昧であり、担当を依頼された当初はどの様に組み立てようかとかなり思案しました。先ず、受講生に何を伝えたいか？ 日本には独自の文化があります。海外の影響を受け、また海外との交流を抑えた時期に独自の文化を醸成し、長い年月を経て今日に至っています。一方、経営も海外からの影響を受けながら、渋沢栄一や盛田昭夫らの素晴らしい経営者が牽引して、独自のスタイルが形成されて来ました。倫理・慈愛を基本精神とするのも日本の文化に根ざした特徴の一つです。

経営（企業活動）と文化はお互いに深く影響し合っている事を分かりやすく受講生に伝えたい！と考えました。図や写真を多く使い、質問を多くして意見を引き出すように工夫していきます。毎年度、修正を加えて進化させていきます。なんとと言っても、学生達の反応は速く、正直に返ってきます。講義が面白く無ければ気持ちよく寝るし、出席率も低下します。一方でコンビニ文化などの身近なテーマで講義を進めるとすぐぶる反応も良く、また「無印良品」誕生の経緯や吉本新喜劇の経営の「貫性」などの講義では、レポートでも思いも寄らない意見や感想が出て感動します。

教員生活は当初ずいぶんと戸惑いましたが、今はかなり充実してやり甲斐を感じています。講義やゼミを通じて、教える事の難しさ奥深さを感じながら、自分自身も多くのことを学んで成長しています。これからも頂いたご縁を精一杯活かしていきたいと思えます。

きもと みのる ● 甲子園大学栄養学部特任教授、キャリアサポートセンター長

神戸大学農学部卒業、神戸大学大学院農学研究科修了。不二製油（株）にて、開発、経営を経て代表取締役社長に就任。令和2年4月より現職に従事

新体制スタート

甲子園大学

本年度、甲子園大学長に、前副学長兼地域連携推進センター長・産学連携センター長の伏木亨教授が就任しました。

新学長就任に伴い、大学の新体制がスタートしました。

- 学長 伏木 亨
- 副学長 寺嶋 昌代
- 副学長 安村 直己
- 栄養学部長 亀尾 聡美
- 心理学部長 青柳 寛之



左から 青柳、亀尾、伏木、寺嶋、安村

甲子園大学院事務局

事務局長 松永 博

平成十二年度より二十余年にわたり理事・事務局長の任にあった福井昇が退任し、前事務局次長の松永博が事務局長に就任し事務局の運営を担当します。また福井昇は、評議員として当法人の活動に関わります。

力強い大人へ

大学長 伏木 亨

甲子園大学を選んだ学生はたいへん良い選択をしたと、本年の入学式で申し上げました。

栄養と心理の両分野において、現代の日本をリードする新しい視点に立った本学の発想は注目を集めています。

栄養学部栄養学科は、食の足りた現代において栄養学の果たすべき役割は個人の願いや夢の実現をサポートすることと考え健康的な美を実現する栄養学の「美と栄養コース」を令和六年にスタートします。

令和五年に開設の栄養学部食創造学科は全く新しい教育の形にトライします。教員と少人数の学生のグループを作り社会に出た際の即戦力となるコミュニケーション能力を鍛えます。食品開発能力を高めるために社会で活躍している専門家を交えた「スクール」と呼ぶゼミを多数オープンしました。

心理学部では、令和六年に「現代メディア心理学領域」をスタートさせ、現代メディアアニメやゲームなどのメディアやビジネス、スポーツの心理を探求することで現代社会を鋭く切り取る発想を育みます。甲子園大学がよい選択である所以です。

これからも皆さんの選択は続きます。人生を左右するような選択

から、日常的な選択まで、人生は選択の連続です。一つの道を選ぶことは、他を捨てる決断です。躊躇するのは当然です。そこで人生の長い道のりを賢く軽やかに生きる方法をお教えします。

二つの選択肢。実は、どちらを選んでも間違っていない。選んだ道が一瞬は期待外れでも、後になってそれが幸いすることもあります。選択結果に優劣なんてありません。しかし、いったん道を決めたら、選んだ道のいいところばかり探して生きましょう。いいところを多く見つけたら、その道はいい選択になります。すると、選択することが怖くなくなり、自分の選択に自信が持てるようになります。これこそが、力強い大人への道です。

皆さんは、いい大学を選択されました。私たちと一緒に、頑張ってくださいんでゆきましょう。

令和六年度新コース誕生 学びの分野が広がる

令和六年度より栄養学部、心理学部で新しいコースが誕生します。多様な領域から、自分自身の関心のあるテーマを自由に選択でき、社会に求められる実践力が身につきます。

栄養学部では、「美と栄養コース」を開設します。食の満ち足りた現代にあつて、栄養学は栄養素

高野山慰霊塔参拝

学院創立記念日の五月一日、爽やかな風と美しい新緑の高野山で、学院物故者慰霊塔参拝を行いました。

金剛三昧院・久利康彰導師の読経の中、久米知子理事長・学院長及び法人・各学院園教職員と翠柳会（学院各学院卒業の学内職員の会）会員の計五十名が参拝しました。



慰霊塔は久米長八校祖と、久米利男前学院長をはじめとして学院関係者の霊を合祀し、永くご冥福をお祈りするとともに、先人に対する報恩感謝の心を捧げ、毎年参拝を行っています。また、小学校、中学校、高校、短大、それぞれの児童・生徒・学生は在学中に慰霊塔に参拝し、建学精神の実践を誓い毎年参拝を行っています。



の摂取だけでなく、個人の自己実現、なかでも「美と栄養」に注目が集まっています。栄養学を主軸に、食・栄養の指導を通じて美しい身体づくりを応援できる管理栄養士・栄養士を養成します。

栄養学部栄養学科

実践力を身につけるための5つのコース

- ・美と栄養コース(新)
- ・食と健康サイエンスコース
- ・スポーツ栄養コース
- ・メディカル栄養コース
- ・食育コース

心理学部

広範囲の心理学を幅広く学べる「領域制」

- ・現代メディア心理学(新)
- ・臨床心理学
- ・健康・スポーツ心理学
- ・犯罪心理学
- ・ビジネス心理学
- ・発達心理学

心理学部では、「現代メディア心理学領域」を開設します。人々をつなぐもの、表現の手段としてのメディアが急速に発展しています。SNSでの人との新たなつながり方を研究したり、アニメやゲームに表現された「こころ」を探求します。

入園式

楽しく笑顔いっぱい

春の暖かい日差しが差す四月十日、入園式が行われました。ちょっと大きめの制服に身を包んだ新入園児たちが、お家の方とワクワクドキドキしながら幼稚園にやってきました。



はじめに保育室で担任からクラスの名札を付けてもらい、ホールでの式に向かいました。式では、プーさんのぬいぐるみも登場し、プーさんの手をつないで出てくるサ

プライズにびっくりしたり、みんなでチューリップの歌を歌ったり、年長組のお兄さん、お姉さんにもパーサートを使って園生活の楽しい活動等を教えてもらいました。四年ぶりにマスクなしの、「ニコニコ笑顔」が広がりました。式を終えた後、玄関の入り口の看板の前には、思い思いにポーズを決めて、記念写真を撮影する姿が見られました。初めての集団生活になります。これから毎日楽しく笑顔いっぱい過ごせるように保育活動を進めていきます。



春の遠足 (年中組)

元浜緑地公園

快晴に恵まれた五月十八日、年中組になって初めての遠足に行きました。幼稚園バスに乗ってウキウキ、ルンルンの子どもたちでした。到着してすぐ、たくさん遊具やアスレチックを目の当たりにして、びっくり。「こんな広い所で遊べるの!」「やったー!」と大盛り上がり。幼稚園にはない遊具で遊べることに期待感が高まりました。高くて長いローラー滑り台を見て怖がっていた子どもも、初めは低いローラー滑り台で練習

をしてから、高い方に挑戦しました。滑り終わると「楽しかった! もう一回やる!」と、何回も滑っていました。昼食では、お母さん手作りのおにぎりを美味しく頂きました。食後も、滑り台をしたり、アスレチック遊具で遊んだりしました。帰りのバスでは、「また、みんなで遊びたいな」と楽しかったことを友だちと話していました。



英語あそび

年長組にとっては三年目の英語遊びが始まりました。年長組になりヤル気満々の子どもたちは、椅子の座り方や表情、取り組む姿勢が変わり、講師の先生にも褒められ、得意気な様子でした。基本的な挨拶や、始まり・終わりの歌はよく覚えていて、伸び伸びと楽しんでいました。新しく、色や形、

いちごクラブ

未就園児親子あそび

五月十日、今年度最初のいちごクラブが始まりました。気持ちの良い青空のもと、いちごクラブの子どもたちがお母さんと一緒に次々やってきました。

「はじめまして」幼稚園のみんなが楽しみに待っていましたよ。コロナ禍でしばらく触れ合うことができなかった、いちごクラブの子どもたちと年長児の交流を、数年ぶりに実施することができました。いちごクラブの子どもたちに心を込めて作った手作りの「いちごのペンダント」を、年長組の



曜日の英語を教えてもらい、先生の口の形を真似て発音したり、質問されている内容にしっかりと耳を傾けたりしていました。年少児から指導していただいてる外国人講師と一緒に歌ったり、ゲームをしたり、カード遊びをしたりしながら、外国文化や英語に親しんでいる成果を感じました。うーんと英語に興味をもてますように!



子どもたちが、「仲良くしようね!」と、今年は言葉を添えて、一人ひとりの首にかけてあげることができました。ペンダントを手にスタンバイしている時には「静かにしないとばれちゃう」「ドキドキしてきた」とちよっぴり緊張した様子でした。「にっこり笑顔で掛けてあげた方が喜ぶよね」「このペンダント、喜んでくれるかな?」「泣いている子がいたらお母さんに渡すようにしよう」など、子どもなりにいろいろなこと



つぶやき Pick up
すくすく大きくなあれ
◎年長組に進級したばかりの子どもの会話の中で
教師「いよいよ年長組さんだね。ついこの間、年少組さんだったのに、すっかりお姉さんになって」子ども「小首をかしげながら」そうなんよ。大きくなってどんな可愛いところがなくなってくるの」との回答に教師もびっくりするやら可愛らしいやら、いよいよ十分に可愛いままですよ!
◎鯉のぼり制作で、にじみ絵あそびをしようと思ったコーヒーフィルターを見て
子ども「先生、今日はマスクに絵を描くんだね!」と。コーヒーフィルターの色がマスクに見えたようで...
コロナ禍でマスク生活がすっかり身に付いた子ども達の発言に驚きました。
を考えている姿にお兄ちゃんお姉ちゃんらしさを感じました。
甲子園学院幼稚園の代表としての役割をしっかりと果たすことができた子どもたちは、年長児としての自覚にあふれたとてもいい表情をしていました。



新一年生です

よろしくお願ひします！

○入学式・昼食会（四月十日）

澄み渡る青空に桜の花びらが舞う好天気の下、入学式が行われました。今年度はコロナ禍以前と同様、マスクを着用せず挙行しました。十七名の新一年生の顔は、緊張もありましたがとても晴れ晴れとしており、期待と希望に満ち溢れていました。



○親子の集い（四月二十一日）

甲子園短期大学にあるイネーブルガーデンへ行きまし。お天気にも恵まれ芝生の上で友だちや家族とお昼ごはんをいただいた後、ガーデン内を散策したり、ゲームを楽しんだりしました。最後には親子で好きな花を組み合わせ、フラワーケーキを作りました。いろいろな草花の中で活動した子どもたちの表情は、とても柔らかなものでした。



楽しかった林間学校

五月十七日～十九日

○高野山・奈良県天川村

二・五年生は、高野山へ向かい、金剛三昧院で昼食後、奥の院にある学院物語慰霊塔に参拝しました。校祖先生、前学院長先生他、学院関係者の方々に、感謝の気持ちを伝え、学校で頑張っている様子を紹介しました。天川村ではキャンプファイア



イヤイヤ、ハイキングなど自然を満喫しました。

二日目の

昼食は野外炊爨。カレーライスはとてもおいしく、おかわり続出でした。夜には小枝や木の実を使い、思い思いのフォトフレーム作りをしました。三日目の関西サイクルスポーツセンターでは、水陸両用自転車やおもしろ自転車などの乗り物も堪能しました。



○ユニトピアささやま

一・三・四・六年生は篠山方面へ出かけました。初日は兵庫県立人と自然の博物館で人と自然の共生について学びました。ユニトピア

ささやまに移動し、夜はキャンプファイヤーで親睦を深めました。二日目は、オリエンテーリング、焼き板作り、フィールドアスレチックと盛り沢山の活動がありました。昼食は六年生がみんなのためにカレーライスを作りました。三日目はあいにくの雨。しかし室内で班対抗ゲームやクイズ大会を行い、とても盛り上がった最終日となりました。



すばらしい先輩たち

金 泰誠



第六十三期生
東大寺学園
高等学校二年

私は、甲子園学院に幼稚園から九年間お世話になりました。幼稚園では、年長の時にした和太鼓の練習はとても印象に残っています。小学校では、習熟度別算数の授業で校長先生から難問題に正解すると頂ける金色のシールを集め

たくて、頑張りました。

私は現在、東大寺学園に通っています。東大寺学園は、生徒の平均通学時間が一時間三十分と、皆遠方から通学しています。しかし、それを全く苦と思わせない楽しさがあります。制服はおろか校則もなく、生徒はもちろん先生も自由な方が多いです。また、学校全体で生徒の個性や自主性を尊重してくれます。例を挙げれば、名古屋から新幹線で通学している友達がいり、十以上の言語を独学で勉強している友達がいりします。

球技大会

五月一日

低学年は「転がしドッジボール」、中学年は「ドッジボール」、高学年は「王様ドッジボール」を行いました。

天候にも恵まれ、児童



この林間学校で、四、五、六年生はリーダーとしての役割をしっかりと果たし頼もしい姿を見せてくれました。また、班活動を通じて友情・協力・感謝の気持ちを養うことができ、一人ひとりがまた一つ成長できたように感じました。三日間で学んだことを、今後の学校生活に生かしてくれることでしょう。

童たちのはつらつとしたプレーで試合は大変盛り上がりました。そして、白熱した試合をしている子どもたちに応援の声がたくさん上がっていました。勝敗にこだわらなだけでなく、仲間と協力することの大切さを感じながら楽しむことができました。

期待に胸膨らませ

新生活始まる

○入学式

四月七日、中学校・高等学校の令和五年度入学式が、五階講堂で挙行されました。久米知子理事長先生、ご来賓の方々ならびに新入生の保護者の皆様にも多く参列していただき、新入生を祝いました。



新入生たちは担任の先生の先導で入場し、式での宣誓や挨拶などを堅実にを行いました。リハ

ーサルを行う時間がほとんどなかったにもかかわらず、ここまでの行動がとれたことは、今後の学校生活を期待させるものがありました。

式後、新入生たちは教室に戻り、担任の先生からの第一声を聞きました。まだまだ緊張している様子も見られましたが、次第に学校生活にも慣れ、甲子園学院の一員として充実した日々を送ってほしいと思います。

○対面式と部活動紹介

四月十日、体育館で対面式と部活動紹介を実施しました。入学式には在校生が参加できなかったため、全校生徒が一堂に会するのは対面式が初めてです。新入生は初々しい様子で入場し、在校生の

拍手に迎えられました。

式では校長先生のお話をはじめ、在校生から新入生に向けた歓迎の言葉、新入生からは誓いの言葉があり、最後には吹奏楽部の歓迎演奏がありました。



部活動紹介は、運動部、文化部の二部構成でおこなわれました。生徒会の司会のもと、新入生に対して各部活動の説明や練習の様子が披露されました。間近で見ると練習風景に圧倒される場面もありましたが、新入生たちは、どの部活動に入部しようかと目を輝かせていました。

吹奏楽部 定期演奏会

五月二十三日、あましんアルカイックホールに於いて、本校吹奏楽部の第十四回定期演奏会を開催しました。

今回の演奏会は、新体制で臨む初めての大会で、本番でした。新型コロナウイルスによる影響も緩和し、当日の演奏会直前まで心をついに最高のパフォーマンスを目指し励みました。



第一部は、「吹奏楽のための大阪俗謡による幻想曲」をオーブニングに飾り、今年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲を含む数曲を演奏しました。中でも「ドラゴンの年」はコンクールに向けて取り組んでいる曲でもあり、一段と緊張感のある演奏となりました。

第二部は、KGB紅白歌合戦「平成ヒットバトル」～皆さんを平成の世界へお・も・て・な・し～をテーマに、平成に流行したポップスを様々なパフォーマンスと共に楽しく観ていただきました。また勝敗を決める投票には、お客様にも参加していただき、会場に響く笑いとお拍手の中、定期演奏会を盛大に終えることができました。

春の校外学習

四月二十八日

USJ

中学生と高校一・二年生は、ユニバーサルスタジオジャパンに出かけました。現地集合となりましたが、公共交通機関をしっかりと使いこなし、大きなトラブルなく集合することができました。

当日は天候に恵まれ、生徒たちは様々なアトラクションを楽しんでいました。また、全体的に時間を守って行動することができ、判別行動も予定をしっかりと立てて園内を散策することができていま

した。

生徒たちからは、「クラスメートとの散策を通して、新たな友だちを作ることができた」「グッズショップの店員さんの対応がとても丁寧で、とても勉強になった」などの声が開かれ、たいへん有意義な時間を過ごすことができたようです。



コロナ禍から徐々に日常生活が戻りつつあり、生徒の表情もより一

層明るくなっています。今回の校外学習での経験を学校生活に活かして、今後も続く学校行事の更なる活性化を期待します。

高野山慰霊塔参拝

高校三年生は高野山にある甲子園学院物故者慰霊塔を参拝しました。高野山に入ると世界遺産である大門や檀上伽藍を見ながら中の院駐車場までバスを降りました。手水舎で身を清め、参道には様々な企業の慰霊塔やお墓が並んでいて、静かな雰囲気を感じました。慰霊塔での参拝は、校祖久米長八先生ならびに前学院院长久米利男先生をはじめ、学院関係者の遺徳

を偲び、今後の学校生活への思いを新たにするものです。

慰霊塔の前でクラスごとに合掌し、学院生活で学ぶ幸せと感謝の気持ちを再確認しました。



昼食は、金剛三昧院で精進料理を美味しくいただきました。食事後、メインストーリーを散策、家族へのお土産を選ぶなど、高野山を満喫しました。

スマホ及び防犯教育講習

四月十日

西宮警察署の協力を得て、スマホ・携帯を正しく安全に使用するために気をつけることや、犯罪から身を守る重要性についての講習会を開催しました。

SNSや登下校時のトラブル等具体的な事例を交えながらの講習で、犯罪やトラブルを未然に防ぐための知識や心構えを学びました。生徒たちは真剣に耳を傾け、他人事ではなく、身近に起こる問題としてとらえ、防犯に対する意識を高める良い機会となりました。

体育大会

六月六日、中学校・高等学校合同体育大会を実施しました。台風二号の影響で順延しての開催となりましたが、その分しっかりと準備をすることができ、盛り上がりのある体育大会となりました。

百メートル走、玉入れ、スウェーデン箱運び、リレー、綱引き、学年対抗リレー、クラス対抗仮装行列の六種目を行いました。綱引きでは優勝した高等学



校二年生対教職員のエキシビジョンマッチが行われ、見事に教職員チームを倒しました。

また、今年度もクラス対抗仮装行列が一番の盛り上がりを見せました。各クラスとも、一丸となり様々なアイデアを出し合っており、たいへんクオリティの高い仮装になりました。二年一組の「小池百合子」と二年二組の「映画泥棒」が見事一位に輝きました。総合優勝には中学校、第二位には高等学校二年生、第三位には高等学校三年生となりました。今年例年以上にクラス、学年の団結が感じられる活気ある体育大会となりました。

宿泊研修

高校一年生

五月八日～十日の日程で、高等学校一年生が、「キャリア教育の一環としてSDGsを学び、集団生活を通して仲間との親睦を深める」を目的に、淡路島とネスタリゾート神戸にて宿泊研修を実施しました。

コロナ禍の規制も緩和され、「淡路島体験型SDGsプログラム」では、これからの社会における私たちの身の回りの衣食住についてのレクチャーを受け、続いて火おこしや畝づくりをしました。これらの体験から「循環」「多様性」「共創」を学ぶことができました。天候にも恵まれ、お互いに協力し合っ

て火おこしに取り組みむ姿が印象的でした。二日目、三日目は神戸ネスタリゾートにて、体験活動を行いました。班別行動では事前に計画を立て時間通りに行動することの大切さを学びました。生徒の感想では、「食事がおいしかった」「仲間との仲が深まった」「ホテルに泊まることで、公共のマナーを学ぶことができた」の声が聞かれ、有意義な時間を過ごせたようです。



夏季旅行

中学生

六月十四日、新大阪に集合し、新幹線で東京駅に出発。生徒たちの表情からは、これから始まる夏季旅行に興奮が抑えられない様子がうかがえました。

東京駅で大きな荷物を預け、まずは国立科学博物館へ出発。社会や理科の授業で学習してきた、人類の進化や地球環境の変動などの展示を直接見ることで、生徒たちは目を輝かせていました。また、日本初の都市型高層水族館であるサンシャイン水族館では、幻

修学旅行

高校三年生

高等学校三年生は、六月十二日から四泊五日の行程で、東京・北海道方面へ修学旅行に行きました。

一日目 東京では、厳肅な雰囲気のもと靖國神社の本殿参拝を行い、続いて遊就館を見学し、今ある平和の大切さを実感しました。その後、TOKYOパラマドリ

ブで東京タワーやレインボーブリッジなどの東京の名所を巡りました。二日目 北海道に渡り、カーリング体験と恵庭市にある「えこりん村」観光の二班に分かれて行動しました。カーリング体験は、全員初心者でしたが、ストーンの投げ方やブラシのかけ方を教わり、

想的な水中の世界を楽しみながら、生き物と出会う空間に心が癒された生徒も多く見られました。仲間同士でときめきを分かち合いながら、人類と自然の共存を考える貴重な場になったようです。

二日目のデイズニールランド、三日目のデイズニールでは、どの班も事前に計画を立てていたのと同時に



試合形式でチームプレーを楽しみました。「えこりん村」では、トラクターに乗ってファームツアーを体験し、牧羊犬ショーを見たりしました。

三日目 札幌市内観光の日です。札幌市時計台やテレビ塔、大通り公園や「白い恋人パーク」などインスタ映えする写真をたくさんとりました。二条市場やラーメン共和国で舌鼓し、食を楽しんだ一日でした。

四日目 アクティブティの日です。午前はラフティングで途中岩にぶつかったり、川に落ちたりしながら、7kmの尻別川を下り大自然に触れたひとときでした。午後はジップラインとニセコピュアの二班に分かれて体験しました。

一目散に目的のアトラクションを目指していきました。制限時間いっぱいまで、食事や買い物、パレードやショー、花火などを楽しみ、仲間と過ごす三日間を思う存分満喫することができました。

「友人との絆を深めることができた」「挨拶の大切さを感じた」「仲間の新たな一面を知ることができた」など肯定的な感想が多くあり、「全員が行ってよかったと思える旅行にしよう」という目標は達成できました。この集団活動での経験から得たことを、今後の学校生活に生かしてほしいと期待しています。

世界最大級のジップラインは、羊蹄山を眺めながら美しい自然を満喫しました。ニセコピュアではツリートレッキングやディスクゴルフなど思いきり遊び、学年でのレクリエーションも大いに盛り上がりました。最終日は小樽観光を楽しみました。オルゴール館で自分好みのオルゴールを制作したり、小樽水族館で動物のショーを見たり、海鮮井など北海道ならではの食を満喫しました。



入学式

四月四日、甲子園学院高校の講堂において三年振りに対面での入学式が挙行されました。



久米知子理事長先生、ご来賓ならびに保護者の皆様と在学が一堂に会して厳粛な雰囲気の中、早坂三郎学長より新入生へお祝いの言葉があり、新入生からは短大生としての誓いの言葉が述べられました。

式後のスタートアップ・ガイダンスでは、教員紹介にはじまり、授業や資格取得、奨学金、学生生活や就職支援等が説明され、メールアドレスや教務システム等、情報関係の登録も行われました。

新入生は、新たに始まる学生生活に期待と緊張を感じると共に「それぞれの専門分野の学習や資格取得を目指し頑張ろう」という強い決意も抱いた様子でした。自らの夢や目標に向かって受け身の学びではなく、社会で活躍できる人材として主体的で積極的に学んでいくことが期待されます。



高野山研修

四月五日、II回生が高野山研修を行いました。学生たちは荘厳な雰囲気の中で参拝しました。



四月五日、II回生が高野山研修を行いました。学生たちは荘厳な雰囲気の中で参拝しました。校祖先生のご遺徳を偲び、学院関係者の霊を慰め、建学の精神の実践を誓うとともに、社会への巣立ちに向け学びを深める決意を報告しました。昼食は金剛三昧院で精進料理を美味しくいただきました。食後は境内や付近を散策し、清々しい自然の中で心落ち着くひと時を過ごしました。

介護福祉士国家試験 全員合格

一月二十九日に実施された介護福祉士国家試験において、介護福祉士フィロルドの受験生全員が見事に合格しました。学生たちは授業や実習と試験勉強を両立させ、冬休み期間も登学して勉強に取り組む等、努力を重ねた結果「介護福祉士登録証」を手に入れることができました。短大を卒業した現在は、国家資格にふさわしい介護福祉士として、それぞれの職場で介護の仕事に奮闘しています。

全学交流会

六月二十三日にI・II回生の交流イベント「全学交流会」を実施し、普段は接点がない学年や学科が異なり授業では関わらない学生・教員との交流を楽しみました。各学科の特色ある専門教室には、これまで足を運んだことがなかった学生でも入りやすいよう、工夫を凝らしてスタンブラリーをしました。特設された射的会場では、どの学生も真剣に的を狙って景品を手に入れています。

学友会役員はポスター作成や景品購入、会場作りとみんなに楽しんでもらうため準備をしてくれました。短い時間でしたが、交流の輪が広がる機会となりました。

絵本のPOP展示

「認定絵本士養成講座」では、書店員の方から絵本POPの作り方を学ぶ授業もあります。今年もジュンク堂書店西宮店のご厚意で、幼児教育保育学科の学生が制作したPOPを児童書コーナーで展示していただきました。手作りのPOPは効果絶大で、売り上げにも貢献できているとのこと。



高校生エッセーコンクール 作品募集

「高校生エッセーコンクール」は短大教育の周知を兼ねて、進路選択の岐路にある高校生に、自分探しと社会貢献に関しての早い時期での「気づき」の機会を提供することを目的に、平成二十七年にスタートしました。

昨年度は、全国各地から四一九名の応募があり、寄せられた力作の数々に選考者からうれしい悲鳴ががりました。今年度は、九回目を迎え「AI化社会における生き甲斐と絆づくり」をテーマに募集が始まっています。(募集期間 六月五日〜九月二十二日)

学生VOICE 教育実習頑張りました

教育実習では、五月から六月にかけて、幼稚園で三週にわたって、保育者と子どもの関わり方や援助の仕方を学びました。

実習中の制作では、子どもたちの創造力や発想の豊かさに驚かされました。想定していなかったことが起きることもあり、緊張の連続でしたが、臨機応変な対応が求められると思われました。

また、一人ひとりの子どもに向き合うことも大事ですが、常に全体を見渡すことの大切さも学びました。この経験を活かし、授業での実践と就職活動に役立てたいと思います。

応募作品は厳正な審査の後、十月下旬頃に結果が発表されます。

優秀賞(二点)、奨励賞(若干名)に表彰状および副賞が進呈されます(各賞の受賞数は応募数等により変更する場合があります)。

詳しい応募要項や応募用紙は、短大ホームページに掲載しています。表彰式は十月二十八日の短大大学祭当日に行う予定ですが、新型コロナウイルスの状況により変更する場合があります。



絵本コンクール作品募集

乳幼児への読み聞かせや、大人対象のおはなし会など、絵本を使った読書活動が注目されています。そこで短大では絵本作りを通して絵本への関心を深めてもらうため今年度も作品を募集しています。

応募締切は九月二十二日必着。高校生対象の部(高等学校在校)と本学在学対象の部の二部制になっています。

応募規定は未発表のオリジナル作品であること等、詳細は短大ホームページでご確認ください。入賞作品には賞状と副賞が授与され、読み聞かせ動画として配信する予定です。



「食創造学科」スタート!

栄養学部が新しく「食創造学科」が誕生しました。

学科の特徴の一つ目は、オリジナルのカリキュラムを設計できることです。その中で自分の適性や進路を見極め、専門知識と技術を身につけます。二つ目は、食関連企業で働く人や地域社会、農業関係者と交流する機会が準備されていることです。学んだことを生かす実践的な体験ができます。三つ目は、栄養、経営、心理、嗜好性など食に関する総合的な知識が身につくことで、新しい時代の食を創造・提案できる力を養います。



○「一号館リニューアル」
食創造学科の新設に合わせて、一号館一階がリニューアルされました。内装は全て改装され、利便性を高めるため入口のドアが自動扉になり、トイレも新しくなりました。特に学生ホールには、学生が用途にあわせて利用できるよう、可動機や椅子、自由に動かすことができるホワイトボードや電子黒板も設置されました。学習を支援する快適な空間が整備されました。



留学生を紹介します

栄養学研究科博士後期課程にネパールからの留学生ライビシヌマさんが四月から入学しました。

本学に入学したのは、アジア協会アジア友の会の活動であり、京都西南ロータリークラブが支援する管理



栄養士指導者養成プロジェクトの一環です。ネパールには管理栄養士を養成する仕組みがまだ十分に整っていません。そのためライビシヌマさんのような留学生が日本で最先端の知識を身につけ、母国の指導者として活躍することが期待されています。
ライビシヌマさんは、石田哲夫特任教授の研究室に入り、最新の栄養学研究手法を体系的に身につけること、また、博士の学位を取得することを目指しています。

教えて、先輩! オープンキャンパス

四月二十三日のオープンキャンパスでは、「教えて、先輩! 管理栄養士(卒業生)の生の声を聞いてみよう!」と題する講演会を実施しました。

講師は、栄養学部を卒業後、機内食製造会社に就職し、今年で五年目になる岩城育海さんです。現在の仕事内容だけでなく、学生時代に郷土料理をアレンジしたコンテストで入賞した話や、就職してから機内食コンテストに積極的に応募した話を織り交ぜて、管理栄養士の仕事がいかに多岐にわたっているかについて語ってくれました。



後半の在学生も加わった座談会では、「授業は大変そうだが、やっていけるか」「空いた時間はどう過ごすのか」といった質問に、岩城さんは具体例を挙げて分かりやすく答えていました。終始なごやかな雰囲気の中、参加した高校生と保護者の方々、岩城さんと在学生の話を中心に聞いていました。管理栄養士として働くことや甲子園大学での学生生活が具体的にイメージできたことでしょう。

研究紹介 心理学部 破田野智美 専任講師

コロナ禍により、集会や催し、仕事や学校までオンライン配信されましたが、対面と配信は違うとよく言われています。では何が違うのでしょうか。本学の破田野智美専任講師は、東京都立大学の広田すみれ教授と共同で吉田秀男記念財団の助成のもと、演劇を題材として両者の認識の違いを考察しました。調査では評価グリッド法というインタビュー法で演劇の作り手の認識を図りました。



この結果、劇場は「演者や観客の存在の実感」、配信は「Web

での新たな交流」など、それぞれ多角的な良さが認識されていることを発見しました。しかも興味深いことに、それらの認識はあまり自覚されておらず、インタビュア後には、「そんな風に思っていたのか。でも確かにそうだ!」と驚く人がほとんどでした。
この研究では、対面と配信に対する認識の違いを科学的に整理して可視化しただけでなく、それらの相互作用も展望できました。これらの成果は日本心理学会の年次大会や電子情報通信学会の学術雑誌で公表されています。

サークル紹介 吹奏楽部

甲子園大学吹奏楽部は二〇一五年に創部し、今年で八年目を迎えます。今年も一回生の入部を迎え六名での小編成バンドとして活動しています。普段は月一回の学内コンサートを行い、在学生や教職員の方に活気溢れる演奏をお届けしています。

また創部当初からお世話になっている箕面学園高等学校吹奏楽部に加え、昨年から流通科学大学吹奏楽部との交流も始まりました。



今年三月には「甲子園大学吹奏楽部第四回定期演奏会」を行い、過去最多の総勢三十六名で演奏を行うことができました。懐かしい昭和ポップスやクラシックなど、どの世代でも楽しく聞いていただけた多彩な曲目で観客を楽しませました。吹奏楽部はサーキットや大学祭、定期演奏会など音楽仲間との交流の場でもあり、メンバーは演奏を通じて音色を作り上げていく楽しさを仲間と共有できることにやりがいを感じています。

学院生の活躍

○数字は開催月

中学校バレーボール部

④第七十五回西宮市中学校市民体育大会バレーボール競技大会

優勝 (昨年に続き連覇)

⑥令和5年度阪神中学校バレーボール男女優勝大会

優勝 (昨年に続き連覇)

⑦第七十五回西宮市総合中学校女子バレーボール競技大会

優勝 (昨年に続き連覇)



「今年のチームも昨年に引き続き、全国大会へ出場し、一勝することを目指しています。しかし、まずは県大会、近畿大会の一戦一戦を大切に挑みます。応援よろしくお願ひします。」

高等学校バレーボール部

④春季西宮市高等学校バレーボール選手権大会

準優勝

④阪神支部バレーボール春季リーグ戦(一部リーグ)

3位

⑥全国高等学校総合体育大会バレーボール競技兵庫県予選大会

ベスト16 (近畿大会出場)

高等学校剣道部

④阪神地区高等学校剣道大会

優勝

個人 **優勝** 三葉 類 (高二)

準優勝 福家 千紘 (高二)

3位 井上 珠葵 (高二)

3位 藤本ひなの (高二)

⑥兵庫県高等学校総合体育大会剣道大会

準優勝

個人 **3位** 藤本ひなの (高二)

「私たち高校剣道部は、夏のインターハイ出場、冬の全国選抜大会出場を目指し日々鍛錬を重ねています。本年度のインターハイ出場は惜しくも叶いませぬでしたが、夏休みに行われる近畿大会をはじめ各大会でよい結果が残せるようチーム一丸となって取り組んでいきます。」



中学校剣道部

⑦第四十三回西宮市中学校総合体育大会第六十九回剣道競技大会

優勝

個人 **優勝** 三葉 礼 (中三)

3位 菱谷 芽生 (中二)

「二年生をむかえた新体制で、今年度の総体も頂点を目指して稽古に励んでいます。はじめは全員がいまひとつ自信

が持てず、まとまりのなさが目立ったため、上級生が中心となっ



て稽古だけでなく学校生活や私生活の見直しと改善を行いました。その取り組みの一つとして、心を磨き自分と向き合うために、練習後には毎日欠かさず学校周辺と学内の掃除を行っています。小さな積み重ねと継続が自信になり、心も技術も一層の成長が感じられます。これから総体予選が始まりますので、どうぞ応援よろしくお願ひ致します。」

世界大会に出場

四月十五日～十六日の期間、茨城県稲敷郡の美浦ゴルフ倶楽部にて行われたPGA世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会東日本決勝大会11・12歳女子の部において、甲子園学院中学校一年生の



山下萌寧さんが優勝しました。その結果、七月にアメリカのサンディエゴで開催されるIMG A世界ジュニアゴルフ選手権の日本代表選手としての出場権を獲得しました。



お知らせ
教育振興基金の寄付金に
税額控除が適用されます

甲子園学院は昭和十六年三月、校祖久米長八先生が甲子園高等女学校を創設し、以来、皆様方の暖かいご支援と関係者の並々ならぬ努力によって、今日、幼稚園から大学院までを擁する関西有数の総合学園へと発展してまいりました。平成二年の創立五十周年を前に、記念事業の一つとして、教育の充実、向上を図ることを目的に「甲子園学院教育振興基金」が創立さ

れ、その基金づくりのための募金活動が同年四月から開始されました。この基金の事業は文部科学大臣から「特定公益増進法人」及び「税額控除対象法人」であることの証明を得て実施しており、寄付金につきましては、法人及び個人の方々には税制上の優遇措置がございます。今後、学院の教育環境の充実に役立ててまいりますので、ご協力よろしくお願ひします。

園の輪

そのわ No.184

令和5年7月13日発行

学校法人 甲子園学院
〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号
TEL. 0798(67)2100
FAX. 0798(67)5488
http://www.koshien.ac.jp/honbu/

あともがき

◆新年度が始まりました。数年前まで当たり前のように行っていた諸行事を予定通り実施でき、園の輪の紙面で報告できることを素直に喜びたいと思います。また、今後も学院生の活躍をたくさんお届けします。

令和5年度 園の輪編集委員

久米多香子 (編集委員長)	佐藤 典子	浅井 航洋	片桐由美子	中野久美子	猿丸 恭子	平田智永子	檜垣 康太	佐藤有希子	馬部 真也	加藤 理恵	坂田 和隆	黒嶋 俊之	西脇 敏行
(大学)	(大学)	(大学)	(大学)	(短大)	(短大)	(中高)	(中高)	(小学校)	(幼稚園)	(法人)	(法人)	(法人)	(法人)